

科 目 名	障害者ソーシャルワーク					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	滝 口 真						
開 講 年 次	2	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	障害者ソーシャルワークの理論を学習したうえで、障害者施設における実践現場での障害者に対するソーシャルワーク実践を行う。このことから、障害者に対する理解を深め、障害者ソーシャルワークの実践を学習する。						
授 業 の 到達目標	①障害者ソーシャルワークの理論が理解できる。②障害、障害者が理解できる。③障害者の生活が理解できる。④障害者ソーシャルワークを実践できる。⑤障害者ソーシャルワークの評価ができる。						
学 習 方 法	障害者施設での実習を中心に講義も行う。						
テキスト及 び参考書等	適宜、プリントなどを配布する。						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	○	○	○			20
授業態度	○	○	◎	○			10
受講者の発表	○	○	◎	◎			10
授業への参加度	○	○	◎	○			10
その他	◎	○	◎	○			50
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	障害の理解						
第 2 週	障害者の生活理解						
第 3 週	障害者ソーシャルワーク支援						
第 4 週	障害者施設での実習						
第 5 週	障害者施設での実習						
第 6 週	レポート作成および報告①						
第 7 週	レポート作成および報告②						
第 8 週	障害者施設での実習						
第 9 週	障害者施設での実習						
第 10 週	障害者施設での実習						
第 11 週	障害者施設での実習						
第 12 週	レポート作成および報告③						
第 13 週	レポート作成および報告④						
第 14 週	障害者ソーシャルワークにおける障害観と人間観						
第 15 週	障害者施設での実習の評価						
第 16 週							
備 考	※本授業は実際に障害者施設に出向いてソーシャルワークの実習をすることをもって体験的に障害者ソーシャルワークを学習します。受講学生はそのことを十分に理解したうえで履修する必要があります。 ※事前学習と事後学習による自主的な受講を期待します。						